

授業科目 病理学

【担当教員名】 山本通子	対象学年	1	対象学科	健康
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【概要】
病理学は疾病の原因とその成り立ち（病態発生）についての学問で、医学・医療分野の基礎的科目の1つである。
種々の疾病に関して、その原因を明らかにし、その原因が生体にどのように作用し、生体がどのように反応し、その結果どうなるかを知ることは、疾患の診断・治療・予後を理解するのに役立つ。解剖生理学の知識をもとに
授業では病理学の基礎的事項や用語を理解するとともに、臨床医学科目と関連する分野を学習する。

- 【学習目標】
- 1) 免疫とは何かについて、免疫系の全体像を把握し、アレルギー疾患や自己免疫疾患を理解する。
 - 2) 感染症の成立要因と防御機構、病原微生物の種類、代表的疾患について学ぶ。
 - 3) 循環障害、とくに梗塞、血栓症、塞栓症について具体例を含めて理解する。
 - 4) 腫瘍の定義、命名法、分類法、生物学的特性を理解し、検査データなどの臨床的事項も学ぶ。
 - 5) 内分泌系、生体の恒常性維持機構とその異常をきたす疾患について学ぶ。
 - 6) 蛋白質、糖質、脂質およびミネラルの代謝異常について学ぶ。
 - 7) 創傷治癒、炎症、退行性病変（変性、萎縮、壊死）、進行性病変（再生、化生、肥大、過形成）などの病理学用語を理解する。

回数	授業計画又は学習の主題		SBO	
			番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	病理学とは	病理学の総論的事項		講義
2	アレルギーと免疫 (1)	免疫系の全体像		講義、ビデオ
3	アレルギーと免疫 (2)	免疫系の異常を示す疾患：自己免疫や免疫不全		講義
4	アレルギーと免疫 (3)	アレルギー疾患について。免疫系のまとめ		講義、小テスト
5	感染と感染症 (1)	感染防御機構と病原体		講義
6	感染と感染症 (2)	主要な感染症（肝炎、結核、STDその他）		講義
7	循環障害	充血、うっ血、血栓、塞栓、梗塞、出血、ショックなど		講義、小テスト
8	腫瘍 (1)	腫瘍の発生と進展、腫瘍の分類（例：胃癌）		講義
9	腫瘍 (2)	腫瘍の診断：病理診断、腫瘍マーカー、画像検査など		講義
10	内分泌調節系 (1)	恒常性維持のしくみとその破綻		講義
11	内分泌調節系 (2)	主要な内分泌疾患		講義
12	代謝異常 (1)	ミネラルの代謝異常、骨粗鬆症とカルシウム代謝		講義
13	代謝異常 (2)	鉄代謝と貧血、ビリルビン代謝と黄疸、核酸代謝と痛風		講義
14	病理学用語のまとめ	細胞の生と死、修復と再生、炎症反応など		講義

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	特に指定しない。			
参考書				
その他の資料	プリント			

【評価方法】 出席状況と簡単なレポート提出（30点）、期末試験（70点）	【履修上の留意点】
---	-----------